

- 問1 東日本大震災の教訓を伝える「女川いのちの石碑」は、津波が到達した地点よりも高い場所に設置されています。このように、震災の経験を物理的な形にしてまちづくりに活用する取り組みについて、その背景にある考え方として適切なものはどれですか。（2026年 長野県公立入試 類似）
- 避難の目標地点を視覚的に明示することで、災害時に住民が迅速かつ適切な判断を下せるようにする考え方
 - 石碑を観光資源として活用することで、震災前よりも観光客を増やして町の財政を立て直すことを最優先とする考え方
 - 建物の再建が難しい浸水域をすべて更地にし、居住を禁止して公園化を進めるための法的な境界線とする考え方
 - 自然災害の発生を完全に防ぐことは不可能であるため、避難を諦めて定住を促進する対策を講じる考え方
- 問2 日本の地形に関する学習レポートにおいて、火山活動によって地下のマグマが地上へ噴出した後、地下の空洞が重みに耐えきれず崩落・陥没することで形成された、大規模な鉢状のくぼ地を指す名称として適切なものはどれか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
- 扇状地
 - カルデラ
 - 三角州
 - シラス台地
- 問3 冬の北西の季節風が吹くとき、日本海側では大雪となる一方で、関東地方などの太平洋側では乾燥した晴天の日が多くなります。このように太平洋側で乾燥した晴れの日が続く理由を、地形の影響に着目して説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）
- 太平洋側から吹き込む湿った季節風が、冬の強い寒気に触れることで雲を消滅させてしまうため
 - 大陸から吹く風が山脈に遮られるため、太平洋側には風そのものが届かなくなり、空気が滞留するため
 - 大陸からの冷たい風が日本海で水蒸気を蓄えたあと、山脈を越える際に日本海側に雪を降らせて水分を失うため
 - 日本海側で雪を降らせた後の風が、太平洋の暖かい黒潮から湿った空気を取り込んで上昇気流を作るため
- 問4 日本の東側の海域に関する記述において、千島列島に沿って北から南へと流れる寒流であり、栄養分が豊富なことから魚の餌となるプランクトンを多く運んでくる海流の名称を選択してください。（2018年 千葉県公立入試 類似）
- 親潮（千島海流）
 - 対馬海流
 - 黒潮（日本海流）
 - リマン海流
- 問5 火山噴火時の降灰範囲や土砂崩れの危険箇所、避難所などを地図上に示し、自然災害による被害を予測して小さくすることを目的として作成された地図を何というか。（2018年 北海道公立入試 類似）
- ハザードマップ
 - 地形図
 - 土地利用図
 - 路線図
- 問6 宇治川のような大きな河川の周辺において、過去に建物が浸水するほどの被害があった際、被害を免れた地点の地形的な特徴を地形図から読み取る方法として、最も適切なものはどれですか。（2024年 長崎県公立入試 類似）
- 等高線の間隔が非常に狭く、急な傾斜地となっている山の斜面にある地点を確認する。
 - 河川のすぐ横に位置し、等高線の間隔が非常に広くて平坦な土地であることを確認する。
 - 標高が周囲よりもわずかに高く、地形図上で等高線が閉じた曲線を描いているような微高地を探す。
 - 周囲を山に囲まれ、等高線の数値が周囲よりも小さくなっている盆地のような場所を探す。
- 問7 日本周辺の海底地形において、水深が約200メートルまでの平坦な広がりを持つ「大陸棚」の特徴として、水産業の観点から最も適切な説明はどれですか。（2024年 和歌山県公立入試 類似）
- 水深が数千メートルに達し、プレートの沈み込みによって深い溝になっているため、深海魚の宝庫である
 - 水温が極めて低く光が全く届かないため、プランクトンの増殖が抑えられ透明度が高い
 - 海底からマグマが噴き出し山脈のように連なっているため、魚が産卵する場所がない
 - 太陽光が海底付近まで届きやすくプランクトンが豊富であるため、好漁場になりやすい
- 問8 愛媛県八幡浜市周辺の統計資料や地図情報によると、等高線の間隔が非常に狭い急斜面と、間隔が比較的広い緩斜面が混在する地形が見られます。このような地域において、等高線の間隔が広い場所で最も盛んに行われている農業形態として適切なものはどれですか。（2022年 静岡県公立入試 類似）
- 標高の高さを活かした高原野菜の栽培
 - ミカンなどの果樹栽培
 - 豊富な水を利用した稲作（水田）
 - 平坦な土地を活かした大規模な畜産業
- 問9 本州の中央部に位置し、標高3000メートル級の山々が連なる飛騨山脈、木曽山脈、赤石山脈の3つの山脈を合わせた総称として適切なものはどれですか。（2025年 千葉県公立入試 類似）
- 日本アルプス
 - 奥羽山脈
 - 中国山脈
 - 四国山脈
- 問10 三重県の志摩半島などの沿岸部に見られる、山地が沈降したり海面が上昇したりすることで形成された、複雑に入り組んだ鋸歯状の海岸線を何といいますか。（2023年 石川県公立入試 類似）
- 三角州
 - 砂州
 - リアス海岸
 - 干拓地
- 問11 地形図から読み取れる土地の傾斜や道路の形状について述べた次の文のうち、記述として正しいものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）
- 等高線の数値が進行方向に向けて小さくなっていれば登り坂であり、道が三叉に分かれていれば十字路の交差点である。
 - 等高線の間隔が進行方向に向けて広がっていれば急な登り坂であり、道が四方に分かれていれば丁字形の交差点である。
 - 等高線の数値が進行方向に向けて大きくなっていれば登り坂であり、道が三叉に分かれていれば丁字形の交差点である。
 - 等高線の間隔が非常に狭くなっていれば平坦な土地であり、道が直角に交わっていれば必ず丁字形の交差点である。
- 問12 日本列島の地質構造に関する説明として、フォッサマグナの特徴を正しく述べたものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
- 火山活動によって噴出した溶岩が積み重なってできた、標高の高い山脈地帯のことである
 - 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。
 - 関東地方から九州地方までを内帯と外帯に分ける、日本最大級の断層のことである。
 - プレートの沈み込みによって形成された、列島に沿って分布する細長い海溝のことである。
- 問13 日本の太平洋側の気候において、冬に晴天の日が多くなり乾燥した風が吹く仕組みについて、地形と季節風の関係から説明したものとして正しいものはどれですか。（2019年 高知県公立入試 類似）
- 北西からの季節風が日本海側で雪を降らせた後、水分を失って山脈を越えてくるため
 - 南東からの季節風が太平洋で発生した上昇気流を伴い、山脈を越えて冷え込むため
 - シベリア高気圧から吹き出す風が、太平洋上で発生する低気圧を日本海側へと押し戻すため
 - 日本海を流れる暖流によって温暖れた空気が、山脈を越えられずに太平洋側に停滞するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 避難の目標地点を視覚的に明示することで、災害時に住民が迅速かつ適切な判断を下せるようにする考え方	防災において、ハザードマップなどの情報共有とともに、現地に具体的な避難の目安（石碑）を設置することは、心理的な迷いを減らし迅速な避難行動に繋がります。これは、ハード面の対策（防潮堤など）だけでなく、人々の意識や行動に働きかけるソフト面の防災対策を組み合わせたまちづくりの具体例と言えます。
問2	答え 2 カルデラ	火山の爆発的な噴火によって大量のマグマが地上に放出されると、地下に巨大な空洞が生じます。この空洞が崩落することで、通常の火口よりもはるかに大規模な窪地が形成されます。熊本県の阿蘇山や北海道の屈斜路湖などは、この地形の代表的な例として知られています。
問3	答え 3 大陸からの冷たい風が日本海で水蒸気を蓄えたあと、山脈を越える際に日本海側に雪を降らせて水分を失うため	シベリア大陸から吹き出す冷たく乾燥した季節風は、日本海を渡る際に暖流（対馬海流）の影響で水蒸気を補給します。この湿った風が日本列島中央の山脈にぶつかって上昇し、日本海側に雪を降らせます。その後、水分を失って乾燥した空気が山を越えて太平洋側に吹き降ろすため、冬の関東地方などは乾燥した晴天となります。
問4	答え 1 親潮（千島海流）	千島列島に沿って南下してくるため千島海流とも呼ばれる寒流です。この海流はプランクトンを豊富に含んでおり、日本の太平洋側の漁業において重要な役割を果たしています。日本海側を流れる寒流であるリマン海流との混同に注意が必要です。
問5	答え 1 ハザードマップ	自然災害による被害を軽減（減災）するために、被災想定区域や避難場所、避難経路などを予測して表示した地図のことです。「防災マップ」とも呼ばれます。地形図は地形や土地の様子を表したもので、路線図は交通機関の経路を表したものであり、目的が異なります。
問6	答え 3 標高が周囲よりもわずかに高く、地形図上で等高線が閉じた曲線を描いているような微高地を探す。	浸水被害を避けるためには、周囲の土地よりも標高が高い場所を選ぶことが鉄則です。地形図において等高線が円のように閉じている場所や、数値から周囲より高いことが確認できる地点は、氾濫した水が到達しにくい「微高地」であることがわかります。宇治川のような河川沿いの地域では、こうしたわずかな土地の高低差が防災上の重要な判断基準となります。
問7	答え 4 太陽光が海底付近まで届きやすくプランクトンが豊富であるため、好漁場になりやすい	大陸棚は水深が浅いため、光合成を行う植物プランクトンが活発に増殖します。これを餌とする小さな魚や、さらにそれを食べる大きな魚が集まるため、好漁場（バンク）が形成されます。一方で、選択肢にある深い溝状の地形は「海溝」と呼ばれ、大陸棚とは異なる特徴を持ちます。
問8	答え 2 ミカンなどの果樹栽培	八幡浜市周辺はリアス海岸が続く山がちな地形で、急斜面が多く存在します。その中で、等高線の間隔が周囲より広がっている緩斜面は、排水性が良く農作業もしやすいため、古くからミカンなどの果樹園として土地利用されてきました。水田はより平坦な土地や水の得やすい場所に作られるため、この地形条件では果樹栽培が一般的です。
問9	答え 1 日本アルプス	飛騨山脈（北アルプス）、木曽山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）の3つは、その険しさから「日本の屋根」とも呼ばれます。明治時代にイギリス人技師のガウランドが名付け、小島烏丸らによって広められました。これらは本州の中央部で南北に連なり、日本の地形の骨格をなしています。
問10	答え 3 リアス海岸	山地が海に沈む「沈降」などの地殻変動や、地球規模の海面上昇によって、かつての谷の部分に海水が入り込むことで形成されます。複雑な形状の海岸線は波が穏やかになりやすく、古くから天然の良港として利用されたり、真珠やカキなどの養殖業が盛んに行われたりしてきました。
問11	答え 3 等高線の数値が進行方向に向けて大きくなっていれば登り坂であり、道が三叉に分かれていれば丁字形の交差点である。	等高線は標高の等しい地点を結んだ線であり、その数値が増える方向に進むことは標高が上がる「登り坂」を意味します。また、アルファベットの「T」の字のように道が三叉に分かれている形状を「丁字形」と呼び、四方に分かれている「十字路」と区別して読み取ることが重要です。
問12	答え 2 糸魚川・静岡構造線を西端とする、日本列島を地質的に南北（東西）に分断する巨大な凹地である。	フォッサマグナは単なる「線」ではなく、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積している「地質的な溝（領域）」を指します。この領域の西側の境界線が糸魚川・静岡構造線です。選択肢にある「内帯と外帯に分ける断層」は中央構造線の説明であり、これと混同しないよう注意が必要です。
問13	答え 1 北西からの季節風が日本海側で雪を降らせた後、水分を失って山脈を越えてくるため	冬になるとシベリア高気圧から北西の季節風が吹き出します。この風は日本海を渡る際に水分を蓄えますが、日本列島の中央にある山脈にぶつかり、日本海側に雪や雨を降らせます。その後、水分を失って乾燥した空気が山脈を越えて太平洋側に吹き降ろすため、太平洋側では冬に乾燥した晴天が続くこととなります。